

# 令和7年度 石井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

### 【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体を持ち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

### 【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

### 【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校  
・学ぶ楽しさを味わい、一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校  
・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域と共に歩み、信頼される学校  
・保護者や地域との連携し、協力して児童を育成する学校

### 【目指す教職員像】

- (1) 自己研鑽に努め、前向きで責任感がある教職員  
・自ら進んで研修に励み、責任感をもって職務を遂行する教職員
- (2) 児童理解に努め、愛情をもって児童と向き合う教職員  
・教育的愛情をもち、一人一人のよさや個性を大切にす教職員
- (3) チーム学校の一員として意識を高め、協働を大切にす教職員  
・チームの一員であることを忘れず、協力し合って職務を遂行する教職員

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「個性」や「よさ」等を様々な視点で見取るとともに、自尊感情や自己有用感、規範意識、思いやりの心の育成に努める。
- (2) 児童がそれぞれの『見方・考え方』を働かせて課題にじっくり取り組む「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成を図る。
- (3) 気力や体力を育む教育活動の充実に努め、児童が自分の心と体に関心をもち、生涯に渡って心身ともに健康で安全に生活できる資質や能力の育成に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、サービスを遵守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるよう努める。
- (5) 地域の教育資源や資料を活用し、郷土への愛情と誇りを育む学習の充実に努め、家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域とともにある学校づくり」に努める。
- (6) 陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かで逞しく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。
- (7) 教職員一人一人が勤務時間を意識し、働き方の意識改革に努める。また、地域の教育資源や学生ボランティア等の有効活用を図り、教職員が児童と向き合う時間の確保につなげる。

### 【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、  
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- (2) 心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実に目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。
- (4) 各教科・特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語科・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (5) 前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進 (1)体力と気力増進 (2)確かな学力の定着 (3)豊かな心の育成 (4)地域と共に歩む学校づくり ○(5)地域学校園活動の推進 (6)教職員の資質の向上 (7)危機管理・環境整備の充実
【学 習 指 導】	「認め合い、励まし合って、生き生きと輝く児童の育成 ～自己の生き方について考えを深める道德教育の実践～」 (1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力
【児 童 生 徒 指 導】	「豊かな心を持ち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」 ○(1)基本的な生活習慣の育成 (2)規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3)望ましい集団づくり (4)個に応じた指導の充実 (5)家庭・地域・関係機関などとの連携
【健康(保健安全・食育)・体力】	「自らのより良い健康や体力についての見方や考え方を深め、進んでその向上に努める児童の育成」 ～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実 保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習や学級活動の充実～ ○(1)望ましい食習慣の育成 (2)健康・体力の向上 (3)家庭・地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 授業のめあての確認や、振り返りの活動を充実させることによって、児童が「できた」「分かった」を実感し、主体的に授業に取り組めるように工夫する。 ② 「石井っ子の学習」に基づいた基本的な学習態度の徹底を図るとともに、各教科におけるまとめの学習の際に、情報の取り入れ方、協力してまとめる学び方を丁寧に指導する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会・一人1授業などを積極的に行い、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.3</td> <td>87.8</td> <td></td> <td>88.3</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が3.3ポイント上回った。授業においては、「めあて」から「振り返り」まで一貫した分かりやすい授業を展開したり、ペアやグループ学習を取り入れたりして、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努めた。 【次年度の方針】 ・各教科におけるまとめの学習や発表の学習の際に、情報の取り入れ方や、他者との協力の大切さについて丁寧に指導する。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れながら、考えを伝え合い、児童の深い学びにつなげていきたい。 ・主体的に学習に取り組むための指導の工夫について、学校課題における校内研修を活用して研究し、授業力の向上に努める。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	87.8		88.3
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.3	87.8		88.3									
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業だけでなく全ての教育活動において体験活動を重視し、思いやりの心を育む。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、人権教育の推進と人権週間の取組の充実を図る。 ③ 児童会活動や縦割り班活動を通して、互いを思いやる心を育む。 ④ 相手を思いやる行動を奨励することで、実践意欲や実践力の充実を図る。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td>94.4</td> <td>100</td> <td>89.3</td> </tr> </table> 数値指標は、教職員が9.6ポイント、児童が4.3ポイント上回った。道徳科の授業だけでなく、いじめゼロ集会や言葉遣いに関する授業を全校で行ったことで、各学年において成長が見られた。 【次年度の方針】 ・校内人権週間やいじめゼロ集会の実施、縦割り班の活動などの異学年交流などを通じて、引き続き相手を思いやる心を育てていきたい。また、相手を思いやる言動を日々奨励することで思いやりのある行動を根付かせたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6	94.4	100	89.3
教職員	保護者	地域住民	児童									
94.6	94.4	100	89.3									

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学習・生活面において自分の成長・達成感が味わえるような目標を設定し、目標達成に向けた支援を行う。</p> <p>② 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>③ 道徳の授業において、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p> <p>④ キャリアパスポートは年に1度、家庭に持ち帰り、児童の成長を保護者に共有する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1056 147 1481 230"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td>83.3</td> <td></td> <td>86.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が9.6ポイント、児童が1.6ポイント上回った。「ほめ褒めタイム」や「ありがとうの木」を活用し、児童相互が認め合う場の工夫や、道徳の授業の日常化するための「学びのあしあと」を全校で取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期の始まりや行事に向けての準備など、節目の際に目標を立てさせ、実践と振り返りを充実させることで成長や達成感が味わえるようにする。</li> <li>・教育活動全体を通して、できたことを褒め合う場を積極的に作れるようにする。</li> <li>・道徳の授業をきっかけとして、教育活動全体で目標に向かって粘り強く取り組ませられるようにする。</li> <li>・学校での活動の様子を、HPを中心に学年便りや心ぼかぼか便りを通じて、今後も保護者に知らせる機会をとる。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6	83.3		86.6
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6	83.3		86.6								
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康・安全に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、家庭科、給食、学校行事と関連を図った指導を行う。</p> <p>② 自分の身の安全を守る力を身に付けるため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練、一斉下校等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1056 904 1481 987"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.2</td> <td>91.4</td> <td>100</td> <td>91.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が4.2ポイント、保護者が6.4ポイント上回った。登校下校の指導や避難訓練を中心に安全教育に関する指導を行った。また、職員はアレルギー対応や心肺蘇生研修などを行ったことで、全校で統一した指導を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせた生活目標を設定し、基本的な学校のルールの徹底をする。</li> <li>・避難訓練や交通安全教室を通じて、児童の安全と危機管理に対する意識を高めていく。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	89.2	91.4	100	91.5
教職員	保護者	地域住民	児童								
89.2	91.4	100	91.5								
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。</p> <p>② 道徳科の授業や特別活動において「感謝」「公共の精神」について考え、ボランティア活動への意欲を高める。</p> <p>③ 縦割り班活動による清掃や遊びなどを通して、協力し合う心を醸成する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1056 1478 1481 1561"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td></td> <td></td> <td>86.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員と児童ともに昨年度と同様のポイントとなり、児童が1.1ポイント、教職員が17.3ポイント、上回った。縦割り班や清掃活動での異学年交流なども取り入れ、互いに認め合える場を工夫することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業や、学校行事とも関連させながら、宮・未来教育やボランティア活動を実施していくとともに、振り返りの活動を充実させて、協力することの大切さや自分のよさについて実感できるようにする。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3			86.1
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3			86.1								

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、英語の授業やALTと の交流の際に、英語を使って コミュニケーションしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 英語で伝え合うことの楽しさを 実感するために、授業において児 童同士のやりとりを重視した活 動を充実させ、積極的にコミュニ ケーションを図ろうとする態度 を育成する。 ② 給食の時間や休み時間等を利用 してALTとの交流の場を増やす ことにより、児童が英語に親しむ 機会の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 143 1490 226"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td></td> <td></td> <td>79・9</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が12.3ポイント上 回ったが、児童が5.1ポイント下回った。 英語に慣れ親しむ機会として、掲示物や 放送、読み聞かせなどを行った。また、 授業中は意欲的に英語を使ってコミュニ ケーションをとっているが、日常の中 で英語を使ってコミュニケーションま では至っていない。 【次年度の方針】 ・単元を通して、言語活動を充実させる 授業を組み立てていくとともに、児童同 士のペア活動や、グループ活動を充実さ せることにより積極的にコミュニケー ションを取ろうとする態度を育む。 ・児童が英語に親しむ機会を増やしたり 、ALTとの交流が活発に行えたりする よう努める。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3			79・9
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3			79・9								
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っ ている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の 時間の授業や、市内や地域での校 外学習等において、児童が身近な 地域や宇都宮市のよさに気付く 指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文 化、伝統産業、特産物等について 理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 786 1490 869"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.5</td> <td>79.8</td> <td></td> <td>86.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童が1ポイント上回った。 学年に応じて、学校行事や授業を通じ て、宇都宮のよさを身近に感じさせる ことができた。 【次年度の方針】 ・各教科の学習で機会をとらえて宇都宮 と関連させることで、そのよさに気付 けるようにする。 ・教科の特質に応じて、掲示物を作成し たり、実物に触れたりさせるなどして宇 都宮のよさを伝えていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	86.5	79.8		86.0
教職員	保護者	地域住民	児童								
86.5	79.8		86.0								
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を 学習に活用している」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科、総合的な学習の時間にお いて、個人用パソコンを有効に活 用する。 ② ICT機器の授業における活用法な ど、研修等を通して教員の指導力 の向上を図る。 ③ 授業内容に関連した教育図書の 整備充実や、学校図書館の環境整 備に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1245 1490 1328"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.9</td> <td>80.3</td> <td></td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が6.9ポイント上 がったが、児童は0.2ポイント下回った。 様々な教科で一人一台端末の活用をす ることができたが、個人差がある。 【次年度の方針】 ・ICT支援員と協力した授業を実施 し、児童のICT活用技術を向上させる。 ・ICTを活用していることや場面を便り で家庭に伝える。 ・司書、司書教諭との連携を図ることで 、学校図書館の環境整備を進めていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	91.9	80.3		84.8
教職員	保護者	地域住民	児童								
91.9	80.3		84.8								

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、実践できる場を設定する。 ② アルミ缶回収などの委員会の取組を奨励し、啓発を図る。 ③ ギャラリーの掲示コーナーを充実し、SDGsの取組の啓発を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 147 1485 230"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.4</td> <td></td> <td></td> <td>85.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童が0.5ポイント上回ったが、教職員は6.6ポイント下回った。児童は様々な媒体から「持続可能な社会」への情報を得ており、教職員がより一層の声掛けをしていくことで更なる達成の高まりが期待できる。 【次年度の方針】 ・各教科の学習において、機会をとらえて教師が意図的にSDGsと関連させながら指導を行う。(マーク) ・環境委員会の児童が、環境に関する校内放送を行うことで、関心や意識を向上させる。 ・掲示物によってSDGsへの関心を高める。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	78.4			85.5
教職員	保護者	地域住民	児童								
78.4			85.5								
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。 ② ユニバーサルデザインのよさを意識した授業を展開し、適切な支援に努める。 ③ 通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ④ 児童指導委員会等を通して児童の共通理解を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 730 1485 813"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が15ポイント上回った。児童理解を深め、必要に応じて会議を行い、一人一人に合った支援を検討してきた。引き続き児童一人一人にあった適切な支援を心がけていきたい。 【次年度の方針】 ・個別の指導計画に基づき、計画的な指導を行う。 ・ユニバーサルデザインのよさを授業に取り入れるよう努める。 ・通常学級においても必要に応じて個別の支援計画を作成し、実態に応じ、合理的な配慮を伴う指導を行う。 ・児童指導委員会や必要に応じたケース会議などを行い、校内支援体制を充実させ、組織的に対応する。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	100			
教職員	保護者	地域住民	児童								
100											
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、「いじめをしない、させない、許さない」心を醸成する指導の充実を図る。 ② いじめアンケート(年4回)、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 ③ 「いじめゼロ強調月間」や児童会の「いじめゼロ集会」などの場を適切にとらえ、随時積極的な指導を展開する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1357 1485 1440"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>87.2</td> <td>95.2</td> <td>97.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員が12.3ポイント、児童が12.1ポイント上回った。道徳の時間や強調月間、日々の指導において、継続して心の醸成を図った。学校での取組を地域や保護者に発信し、更なる理解や協力を求めていく必要がある。 【次年度の方針】 ・学校HP や便り、懇談会時などに積極的にいじめ対策の取組についての情報を分かりやすく発信していき、家庭や地域と連携していじめが許されない行為であることを指導していく。 ・アンケートや教育相談を定期的実施し、早期発見・早期対応に努める。 ・「いじめゼロ集会」などの行事と関連させ、いじめに関する道徳単元を履修し、いじめを許さない心が醸成されるように指導をしていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	87.2	95.2	97.1
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	87.2	95.2	97.1								

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、居がいのある学級づくりに向けて認め励ます指導に努める。</p> <p>② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不登校の兆候や傾向の児童に対し校内体制で支援を行うとともに、家庭と連携を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 147 1485 226"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>93.3</td> <td></td> <td>94.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童が9.4ポイント上回った。帰りの会等で児童が相互に認め合う場を設定したり、アンケートの結果を活用し、支援に生かしたりした。現在の数値に満足することなく、引き続き児童一人一人の理解に努めたい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事など様々な場において児童が活躍できる場面やお互いに認め合う活動を継続していく。</li> <li>・日々の授業の中で一人一人が活躍できる場を意図的に作るように努力する。</li> <li>・年2回の教育相談、年4回のいじめアンケート、個別の対応を充実させる。</li> <li>・学年会やケース会議、児童指導委員会、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行っていき、校内支援体制の充実を図る。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	93.3		94.4
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	93.3		94.4								
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強 化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、児童の思いを生かした、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。</p> <p>② 子供たちがいきいきと活動できるよう、帰りの会や学級活動の時間を活用して一人一人が認められる取り組みの充実に力を入れる。</p> <p>③ 外国人児童等について全校で共通理解を図り、個々の実態に応じた指導、必要な支援を組織的に行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 837 1485 898"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>93.1</td> <td>100</td> <td>95.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者が8.1ポイント、児童が10.2ポイント上回った。集団活動の制限が緩和され児童会活動や学校行事が充実した。教育相談を活用し、児童の悩みに寄り添ったり、理解を深めたりすることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班活動や学校行事を通して異学年交流を充実させることで活気あふれる学校づくりにつなげる。</li> <li>・帰りの会や学級活動の時間を活用して互いのよさを伝え合い、一人一人が居がいのある学級となるよう努める。</li> <li>・学年会やケース会議、児童指導委員会、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行っていき、校内支援体制の充実を図る。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	93.1	100	95.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	93.1	100	95.2								
<p>4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 学校課題を中心とした全校体制による授業研究・一人1研究を通して、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。</p> <p>② 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、ICTを活用しながら個別最適な指導を充実させる。</p> <p>③ 朝の学習等を活用して基礎学力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1464 1485 1543"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>88.9</td> <td></td> <td>95.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童が10.5ポイント上回った。道徳科を中心に、要請訪問や公開授業、一人一研究を行い、研究の成果について職員で共有を図り、授業力の向上を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一研究での授業研究の成果を積極的に教員間で共有し、日々の授業に生かすことができるようにする。</li> <li>・課題の設定の工夫や、机間指導、ICTの利用を充実させることにより、個別最適な指導を充実させる。</li> <li>・朝の学習の時間を活用し、話すことや書くこと、漢字・計算などの基礎学力を向上する時間を確保する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	88.9		95.5
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	88.9		95.5								

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 教職員がチームとしての意識を醸成するための関係づくりに努める。</p> <p>② 目標達成、課題解決に向けて学校全体の共通理解の下、連携・分担組織を活用して業務に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.6ポイント上回り数値指標を達成している。若手研修の充実や学年でのサポート体制、支援委員会等を含めた協力体制が継続されている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員で情報を共有し、学年を核として、課題や問題に対してチームで対応し、早期に問題解決できる体制を確立する。</li> <li>・相談しやすい職員室の雰囲気や環境づくりをし、問題を一人で抱え込まない工夫を継続する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6			
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6											
<p>4- (3) 学校における 働き方改革の 推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 一人1スリム化の提案、行事の精選を行うと共に、事務職員の視点で業務改善に取り組みスリム化を図る。</p> <p>③ 職員の業務の負担軽減に向けて、ICTの有効活用や学校支援ボランティアの効果的な活用をより一層図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が14.6ポイント上回り数値指標を達成している。教職員で業務改善に向けたアイデアを出し合い、具体的に改善に取り組むと共に、教職員の意識の改革を促している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材（学校支援ボランティア等）の効果的な活用をより一層図る。</li> <li>・学生ボランティアによる学習支援や事務作業補助を積極的に活用する。</li> <li>・職員の業務の負担軽減に向けて、教職員一人一人のさらなる意識改革を目指す。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6			
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6											
<p>5- (1) 全市的な学校 運営・教育活動の 充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① <u>学校園のテーマに基づき分科会・教科部会で重点化を図り、協働体制で取り組み、小中一貫教育を推進する。</u></p> <p>② <u>地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</u></p> <p>③ <u>「小中一貫教育 地域学校園」の取組を学校だよりや学校ホームページ等で地域、家庭に伝える。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>82.2</td> <td>100</td> <td>86.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回ったが、保護者の肯定的回答率が2.8ポイント下回った。小中合同のあいさつ運動などの取組内容を学校だよりやホームページ等で発信したが、十分に周知されなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校園内の小中学校と連携し、各部会・分科会で協働しながら小中一貫のカリキュラムの取組の充実を図るとともに、保護者や地域へ取組内容等を学校だよりやHP等を利用し発信していく。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	82.2	100	86.0
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	82.2	100	86.0								
<p>5- (2) 主体性と 独自性を 生かした 学校経営 の推進 5- (3) 地域と 連携・協働 した学校 づくりの 推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 地域協議会等による地域人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。</p> <p>② 本校の特色ある教育活動である実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習の実施に向けて、地域協議会と連携し、計画的に地域の教育力を生かす取組を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>90.9</td> <td>100</td> <td>88.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者が5.9ポイント、地域住民が15ポイント上回った。体験活動や出前授業等で地域に根差した教育活動や企業等と連携した活動を実施することができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力や企業の出前授業等を十分活用できるように、地域協議会や関係機関との連携をとりながら教育活動を推進する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	90.9	100	88.7
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	90.9	100	88.7								

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症予防対策、各感染症予防対策など、時期に応じた保健指導を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 143 1485 203"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.3</td> <td>91.8</td> <td>100</td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員が12.3ポイント、保護者が6.8ポイント上回った。感染状況や気温の状況により、各活動を臨機応変に対応することができている。安全点検後、迅速な対応がされている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な安全点検だけでなく、職員間の密な情報交換により、危険箇所の修繕を素早く実施する。</li> <li>児童が避難訓練に真剣な態度で参加できるように指導する。</li> <li>暑さ指数や感染症の状況を職員間で密に情報を共有することで、実態に応じた保健指導が行えるようにする。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	91.8	100	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.3	91.8	100									
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① ICT支援員との連携を図りながら授業準備を計画的・組織的に行う。</p> <p>② 情報主任を中心にデジタル機器の活用がスムーズに行われるように、連絡・調整・研修等を計画的に行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 656 1474 714"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員が9.6ポイント上回った。情報教育研修を実施したり、学年で共通理解を図りながらICT機器の積極的な活用を行ったりすることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内において情報主任を中心に、授業や業務におけるICT機器の活用研修を充実させ、ICT機器の積極的な活用を図る。</li> <li>ICT機器の故障報告や代替品の対応など、情報主任とICT支援員の連携を継続していく。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6			
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6											
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 「私は、時と場に応じたあいさつをしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 児童会を中心とした、子供たちの自主的なあいさつ活動を奨励する。</p> <p>② 地域学校園、家庭や地域ぐるみのあいさつ運動を実施し、日常的なあいさつにつなげる。</p> <p>③ 家庭でもあいさつのよさが広がるように、あいさつ週間に「家庭用あいさつカード」を作成し、活用を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1066 1485 1126"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>81.1</td> <td>85.2</td> <td>100</td> <td>86.3</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童が1.3ポイント、地域住民が15ポイント上回った。定期的なあいさつ運動の実施や地域を巻き込んだあいさつ運動の成果といえる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動を継続して行っていく。</li> <li>校門や昇降口でのあいさつ運動も含め、朝の登校指導などであいさつを奨励し、学校外でも進んであいさつができる児童を育てていきたい。</li> <li>日常的なあいさつの推奨を行い、校外でのあいさつにつながるように、引き続きカードなどを活用し、家庭との連携を図っていく。</li> <li>家庭用あいさつカードや便り、HP、メール等を活用し、家庭への啓発を行っていく。</li> <li>地域学校園のあいさつ運動を行う。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	81.1	85.2	100	86.3
教職員	保護者	地域住民	児童								
81.1	85.2	100	86.3								

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図り、基本的な生活習慣育成の徹底を図る。</p> <p>② 生活当番組織を活用し、日常生活の指導の充実を図る。</p> <p>③ マナーを意識した児童会活動を設定し、児童にきまりやマナーを意識させるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.5</td> <td>93.4</td> <td>100</td> <td>88.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童が3.7ポイント、教職員が1.5ポイント上回った。「石井っ子の生活」を基に組織的な指導をし、登下校の安全に向けた声掛けを継続していきたい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図るとともに、家庭と連携しながら継続的に指導していく。</li> <li>・児童指導委員会などを活用し、情報を共有し、同一歩調で指導していく。</li> <li>・生活目標を明確にし、共通理解を図りながら児童指導に取り組む。</li> <li>・安全な登下校について継続的に指導を続ける。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	86.5	93.4	100	88.7
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	86.5	93.4	100	88.7							
<p>B3 児童は、家庭学習の習慣が身につけている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、家庭学習の習慣が身に付いている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。また、児童へ家庭学習や読書の大切さについて指導を行うことで、主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>② 学年に応じた家庭学習記録カードを活用し、児童が学習の積み重ねを実感し、意欲を持続できるようにする。</p> <p>③ 家庭学習への取り組み方について学級懇談会等で家庭学習について情報交換を行うことで、保護者と協力して取り組むことができるように努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81.1</td> <td>72.6</td> <td>100</td> <td>78.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者が12.4ポイント、児童が6.4ポイント下回ったものの、昨年度に比べ上昇している。宿題についてはよく取り組めている様子が見られる。自主学習には引き続き啓発が必要である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めや、長期休業前などに家庭学習の大切さについて指導を行い、意識づけを図る。</li> <li>・保護者にも児童の取組みが伝わるように、学年だよりや懇談会等で家庭学習の取組方やよい取組などを紹介することにより、家庭と協力して取り組めるよう努める。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	81.1	72.6	100	78.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
81.1	72.6	100	78.6								
<p>B4 児童は、進んで体力づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、休み時間（クラス遊びを含む）や放課後などに進んで体を動かしている」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 体育等の授業において、サーキットトレーニングや持久的な運動を取り入れ、体力づくりにつながるような学習内容を工夫する。</p> <p>② 各種検定やミニマム、元気っ子チャレンジを活用し、休み時間に児童が進んで体力づくりに取り組む意欲がもてるよう努め、学年便りなどで保護者に周知する。</p> <p>③ 学級活動、保健学習、食育教育などを通して、体を動かすことの大切さに気付かせ、意欲付けにつなげる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td> <td>68.5</td> <td>90.5</td> <td>76.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者が11.5ポイント、児童が3.8ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候に応じて（暑いときや雨天時の）、体育館を使える環境を整え、体育行事等の見直しを行った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業間休みは積極的に校庭で過ごすような環境づくりと声を掛ける。</li> <li>・うつのみや元気っ子チャレンジの積極的参加を促す</li> <li>・運動委員会を中心に、体を動かす運動遊びを紹介したり、機会を設けて参加できるようなイベントを企画したりできるようにする。</li> <li>・保健体育や学級活動での指導を通じて、運動すること大切さや心と体の関連などをしっかりと指導していく必要がある。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.6	68.5	90.5	76.2	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.6	68.5	90.5	76.2								

<p>B5 学校は、より良い教育環境作りに向けて子供たちと共に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、楽しくやる気ができる環境を作ろうとしている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 様々な教育活動において、子供たちが生き生き活動し、活躍できる場の設定を行う。</p> <p>② 教室内外において、子供たちの活動や意欲を喚起する環境作りを子供たちと共に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>87.4</td> <td>100</td> <td>92.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値目標は、児童が7.5ポイント上回った。各学級での学習内容の掲示や児童作品の展示、ギャラリーの掲示など、校内の掲示物を工夫し、子供たちの活動や意欲を喚起することができた。また、豊かな心を育むことを目指して、心ぼかぼかの木を設置したり、心ぼかぼか読み聞かせ等を開催したりと、環境づくりを行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に取り組むことができるように、教室内外の掲示物を目的に応じて整え、学習や活動意欲を喚起したり、自発的に取り組ませたりするような工夫をする。</li> <li>・今年度の取組をもとにして、児童が主体的に活動するために、教職員が協力しながら活動を工夫する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	87.4	100	92.5
教職員	保護者	地域住民	児童							
97.3	87.4	100	92.5							
<p>B6 教職員は、児童にとって学校生活が楽しく、居がいのある学校づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生は、児童が学校生活に居がいを感ぜられるような工夫をしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態をとらえ、一人一人が学習や様々な活動を通して居がいを感ぜられるよう授業や学校行事などを工夫するよう努める。</p> <p>② 児童が充実感や達成感を感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.3</td> <td>91.4</td> <td>100</td> <td>94.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者が6.4ポイント上回った。児童の肯定的回答率が9.5ポイント上回った。各学級において居がいのある学級づくりに取り組むほか、学年や学校として様々な行事を工夫して実施している。また、お便りやHP等を通じて発信し、保護者への周知も図られた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が役割をもち、居がいのある学級づくりを推進するために学習活動中の教師のコーディネートを充実していくことで、自分のよさや友達のよさに気づき、成長にも気付けるようにしていく。また、互いを認め合うほめほめカード等の継続で自己有用感を高め、達成感を実感させていく。また、にこにこタイムでの縦割り班活動の実施で自分のよさを実感できる取組を進め、発達段階に合わせた居がいを感ぜる場を意図的に設定する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.3	91.4	100	94.5
教職員	保護者	地域住民	児童							
97.3	91.4	100	94.5							

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果から、学校の教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉える。

26項目中20項目で数値目標を達成した。

そのうち、A12「不登校を生まない学校経営」、A19「安全に配慮した環境づくり」、B6「居がいを感ぜられる学校生活」については、児童、保護者、地域、教職員の全ての対象、もしくは評価を得た対象の全てから肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。

昨年度に引き続き、職員の肯定的回答率が高い傾向にあり、チームとしての意識の高まりが見られるとともに、今年度は保護者の肯定回答率も昨年度より高くなっており、学校での取組に理解が得られていると考えられる。一方で、暑さによる外遊びの禁止や感染症対策により体育的活動の中止などにより、体力づくりの面では課題がある。方法等を工夫しながら、持続可能な取組を考えていく必要がある。

職員は、本年度、学校研究課題「認め合い、励まし合って、生き生きと輝く児童の育成～自己の生き方についての考えを深める道徳教育の推進～」を軸に、心を育む教育の充実に努めてきた。また、一人一人の児童を多くの教職員で多面的な視点から見取り、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努めてきた。

個々の項目については、児童、保護者、地域、教職員のうち、いずれかの対象の肯定的回答率が80%以下の項目は以下のとおりである。

A6「英語を活用してのコミュニケーション」、A7「宇都宮市の良さの理解」、A9「持続可能な社会の実現」、B3「家庭における学習習慣」、B4「体力増進」の5項目とあった。

A6「英語を活用してのコミュニケーション」については、学習の中ではALTや友達と外国語を活用してコミュニケーションをとっているが、日常の中での外国語の活用は十分でない。外国語に興味をもつような、掲示物や放送、読み聞かせ等を工夫しているので、今後も継続していくとともに、朝の学習の時間などに外国語を使ってコミュニケーションをとる機会を作るなどして、日常の中で外国語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを伝えていきたい。

A7「宇都宮市の良さの理解」については、総合的な学習の時間「宇都宮学」での学習だけでなく、宇都宮のよさを紹介する掲示物を作成した。また、宇都宮の特産である「トマト」を使った給食の献立や宮っ子ランチの実施をし、それらを紹介する動画を流すなど、全学年において宇都宮への興味関心を高める工夫に努めてきたが、今後も取組を継続していきたい。

A9「持続可能な社会の実現」では、児童は委員会活動や学習内容、様々な媒体から「持続可能な社会」への情報を得ており、関心ももっている。また、給食の残渣を堆肥にする実証実験にも参加し、できた堆肥を教材園で活用するなど持続可能な社会に向けた取組について行っているが、児童一人一人が自分事として捉えられるように、教職員がより一層の声掛けをしていくことが必要だと感じる。生活科や総合、家庭科、社会科における活動や環境に関する学びを通して、引き続き持続可能な社会への関心を高める。

B3「家庭における学習習慣」では、現在も家庭学習の充実に図る指導や資料作成などは行ってきた。また、年度初めや、長期休業前などに自主学習や読書の大切さについて指導を行い、意識づけを図ってきた。発達段階に応じて自主学習にも取り組み、自主学習コンテストを行うなど工夫した取組で意欲を高めている。校内での工夫した取組を教職員や児童で共有し、学校全体としても工夫した取組の広がりを作るとともに、保護者にも児童の取組が伝わるように、懇談や図書便り等で、よい取組などを紹介し、児童の実態が伝わるように努力する。

B4「体力増進」では、今年度は夏の気温がより一層高く、外で活動ができない時期が続いた。学級ごとに体育館を貸し出すなど工夫をしてきたが、学級数も多くまだ十分ではない。今後さらに、進んで運動に取り組むことができるように、業間の時間の体育館の貸し出しや、週一回の共遊の時間の着実な実施、運動委員会を中心とした体を動かす運動遊びの紹介、保健体育や学級活動の授業の充実、雨天時や猛暑時の休み時間の体育館の弾力的活用を推進する。また、休み時間の外遊びの推奨だけでなく、児童が楽しみながら体を動かす場の工夫、児童の運動に対する意識の変容や児童が運動を行いやすい環境整備等に努めていきたい。

## 7 学校関係者評価

A12「不登校を生まない学級経営」の保護者や児童の評価が高いのは、担任の先生や教職員が努力をしているからだと考える。同じ不登校でも、それぞれ個別の理由があり、対応が難しくなっているが、できるだけ登校できるように学校だけでなく、専門機関とも連携しながら不登校を生まない学級経営や学校経営をお願いしたい。

A16「業務の効率化」の評価が上がったことはとても良いと思う。ICTの効率的な活用や地域協議会でやっている「水曜ボランティア」の活用も大きな成果を上げているので、今後も内容を検討しながら、教職員のサポートをしていきたい。

B1「時と場に応じたあいさつ」では、地域協議会で「きずなあいさつプロジェクト」を行い、学校内だけでなく地域でのあいさつを励行してきたが、朝の登校指導等で見かけると個人差があり、児童自らあいさつできないこともある。大人から大きな声であいさつをしていくことも大切である。また、民生委員児童委員の方々によるあいさつ運動も2年目になったので、あいさつの呼び掛けだけでなく、児童が地域の方々に見守られていることを感ぜられる取組としても継続していきたい。

児童の安全を見守っているスクールガードの方々の高齢化が問題である。登下校時に家のそばに立って見守ってもらえるだけでも効果がある。今年度は地域の回覧板でも募集の呼びかけを行っている。今後も定期的に呼びかけをしながら、スクールガードの見守りが継続していけるように、学校と地域が協力していきたい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度は学校課題として「認め合い 励まし合って 生き生きと輝く児童の育成」をテーマに道徳教育に力を入れ取り組んできた結果、豊かな心の醸成や居がいのある学校づくりなどに一定の評価が得られた。一方で、英語を活用したコミュニケーションや体力増進などでは課題が残った。特に、体力増進は夏が猛暑だったために、外遊びやプール指導が禁止される日も多く、体力増進につながる活動が十分できなかった。これは今年度だけの課題ではないと考えられるので、体力増進の方法を工夫しながら取り組む必要があると考えられる。各種検定の内容の見直しや体育の時間のサーキット運動など、持続可能な方法を工夫しながら改善していきたい。

また、今年度大きく改善されたのは業務改善に関する内容である。行事の内容や取組方法についての検討やボランティアやICTの活用などによって、教職員の業務改善につながった。今後も、日課の見直しや授業準備の効率化などの業務改善に取り組んでいながら、教育の質の向上に努めていきたい。また、教職員のチーム学校としての意識の向上も継続できた。課題解決に向けて、校内だけでなく外部機関とも連携しながら、よりよい方法を検討していきたい。

今後も、地域・保護者・教育委員会と連携を図りながら、働きやすい職場環境の醸成に努めていきたい。